

カルナーだより No.57

チェンマイ子どもの家の敷地内に 職業訓練センターができました！ 山岸 美穂

* 職業訓練センター

この職業訓練センターの建物と訓練機材は日本タイ両国の親善のためにと、ライオンズクラブ国際財団交付金ならびにライオンズクラブ国際協会 333E 地区（茨城県）ライオネスメンバーとチェンマイ市の女性ライオンズクラブの協力によって建設して下さったものです。

完成したセンターは敷地内の門を入ってすぐ右、女子宿泊寮の隣にあり、りっぱなコンクリート2階建てです。1階の一部屋は裁縫部屋となっており、電動ミシンや足踏みミシン、布や糸、針などの裁縫道具一式が全て備えられています。もう一部屋には染色のためのガスコンロ、革細工のための作業台、木工のための電動糸ノコなど、様々な作業ができるような設備、備品が整えられました。一部屋 12 畳ほどといった広さでしょうか。センターの裏側には水場も設けられ、別棟で2つのお手洗いもできました。2階は大部屋になっています。



* 新しくできた職業訓練センター（上）
裁縫部屋（中）と水場（下）

* 開所式

去る8月25日に職業訓練センターの開所式が執り行われました。

子ども達は開所式の前後数日間学校を休み、この期間はチェンマイ市内のドロップインセンターも閉めて、スタッフや青年ボランティア達が泊まり込みで手伝いに来ました。チェンマイ子どもの家で育ったジェームくんは高専卒業後、進学資金を貯めるために市内のホテルに就職し、夜間のルームボーイをしています。今回このために日中バイクで約35km先の子どもの家まで手伝いに来てくれ、夜はまた市内に戻り仕事に行っていました。子ども達、青年たち、スタッフ全員で日中は敷地内の掃除や整

頓、会場作りなどを手分けして行い、夜は当日の打



* センターの前で集合写真



＊ 鍵の贈呈式

ち合わせ、役割分担の確認、出し物の踊りの練習などなど、朝早くから夜遅くまで子ども達もみんなよく働きました。きれいに拭いた床の上を汚れた足で歩き、また拭き直したり、磨いたガラス戸に顔をくっつけて汚し、また拭き直したり…等々を繰り返していた感もありますが…

当日は子ども達がお揃いのドーデック T シャツを着てスタンバイ。来訪者の車を駐車場へ誘導する係、門での出迎え係、参列者へ飲み物を配る係等々、仕事を分担してみんな大変張り切っていました。午前中は仏教儀式が執り行われました。敷地内の全ての建物をつなぐように白い糸がかけられ、その白糸は新しいセンターの 2 階に設えられた祭壇を経て、読経する僧侶にまでつながります。白糸を手に掛けた 5 名の僧侶による読経の後、参列者への聖水供養などがありました。村の長老の皆さん方が儀式のお手伝いをしてくださったのはもちろんのこと、村の方々も多数参列してくださいました。

お昼ご飯をはさんで、2 階の大部屋に椅子を並べて開所式の式場に設営しました。

午後からは茨城県ライオンズの皆さん 15 名ほどがバスで来られ、チェンマイの女性ライオンズクラブの方々 10 名ほどもお迎えして開所式です。バスの運転手さんが道を間違えてしまい到着が大幅に遅れ、スタッフのガンくんが幹線道路までバイクで迎えに出るといったハプニングもあり、予定より 1 時間ほども遅れての開始でしたが郡行政事務所の方、地域の方々、多数の皆様がご参列くださり会場はほぼ満席となりました。また、日本国チェンマイ総領事館の横田総領事もお越しくしてくださいました。横田総領事は 2007 年ご着任ですが、VCDF が 2006 年に

草の根無償支援を受け、子どもの宿泊寮を建設していただいたことをご存知で、この機会に一度 VCDF のチェンマイ子どもの家を訪問、見学したいと急なご案内になったにも関わらずご出席くださいました。

開所式では演台に日本とタイの国旗を飾り、ご来賓のあいさつ、子ども達の踊りの披露の後、鍵の贈呈式、テープカットなどが続きました。

終了後は、職業訓練センター 1 階各部屋を参列者の皆さんに見学していただきました。市内のドーデックで働くアヤーが電動ミシンを使って作業をしたり、大きな男の子が皮細工をしたりしているところなどを実際に見ていただけました。

最後には子ども達手作りの携帯ストラップをお一人ずつに記念品としてお渡しし、最後にライオンズの皆さんと記念撮影して長い一日が終わりました。

これからこのセンターで様々な職業訓練プログラムが計画されているそうです。

チェンマイやチェンライ子どもの家の子供達だけではなく、市内のスラムなどで生活している若いお母さん達、青年達向けのプログラムも予定されているようで、今後が大変楽しみです。



＊ 早速試してみる子ども達
ミシン（上）と革細工（下）